

一瞬を切り取った ビジュアルで 心を動かす



小牧寿里写真事務所

J R 銭函駅から徒歩5分、海の近くに事務所を構える小牧寿里写真事務所は、人物や商品写真だけでなくイベント・ライブ・現代アートまでジャンルを問わないスチール撮影の他、動画撮影、VR制作など、撮影から編集までワンストップで対応、お客様の様々な要望に応えてくれる写真事務所です。

代表の小牧さんはもとも、広告・宣伝用の人物や商品などを撮影する商業カメラマンです。主な顧客である出版社や広告代理店、企業から毎月定期的に撮影依頼がありましたが、新型コロナウイルスの影響により、イベントの中止や飲食店の広告が激減し、仕事の環境は大きく変わりました。コロナ前に7割を占めていた写真撮影の依頼が、ほぼ無くなり、代わりに動画撮影やVR撮影の依頼が増えました。

撮影技術とデジタル化

VRとは、「仮想現実」を意味する言葉で、コンピューターによって作られた仮想空間を現実空間のように体感できるIT技術のことで、通常の動画よりもリアリティの高い映像です。その映像に様々な情報を付加することにより情報コンテンツと

してのVR制作が可能になります。デジタル化は進化、加速していると小牧さんは言います。そのため、高度な撮影技術や写真の加工など、常にスキルアップが求められています。

それだけではなく、写真家として被写体をどのように表現するかが一番重要になります。

撮影現場では、機材トラブルや、天候の影響等でシャッターチャンスが「一度きり」となることもあり、プレッシャーとの戦いです。「カメラマン次第で写真は大きく変わります。自然な笑顔、美しい風景、食べなくなるような料理など、切り取った一瞬で、見た人の心を動かすことができます。カメラマンの醍醐味です」と、小牧さんは話してくれました。お客様がイメージしている以上に映像化することに努めています。

小牧さんは、子供の頃から、ものを作ることが好きで、高校卒業後、コンピュータープログラマーとして東京の会社に就職しましたが、「自分の作品を多くの人に見てもらいたい」という思いが強くなり、会社を辞めて芸術関係の専門学校で学び直し、カメラマンの道を歩み始めました。

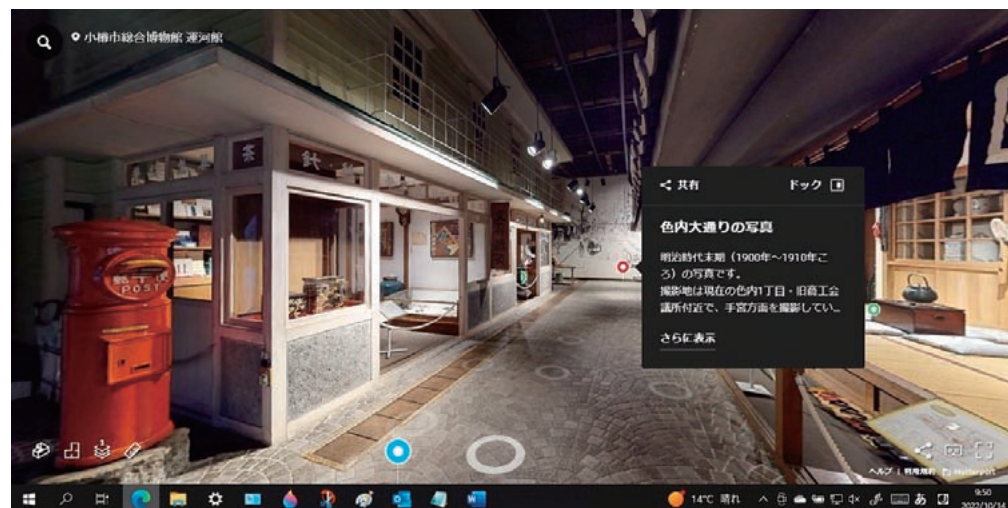
大手出版社に勤めた後、フリーカメラを残したい、取り壊し後も再現したい」との思いから独自でVRで残したそうです。

この20年間で写真業界は大きく変わり、フィルムからデジタル、インターネットの普及、手軽に撮れる動画など、IT技術が一気に進化し、その変化に躊躇し悩んだときもあったそうですが、今は、新しい技術を取り入れ自分にしかできない作品で「伝える」ことを大切にしています。

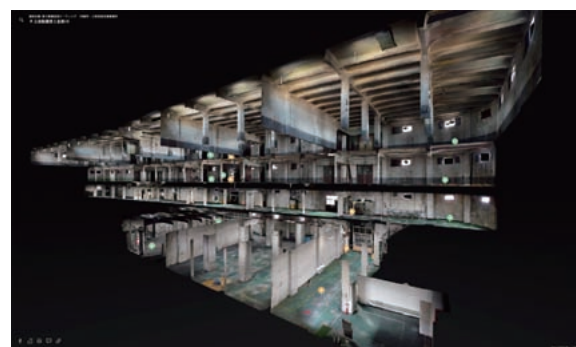
ライフワークとして現代アートの記録撮影に注力し、札幌国際芸術祭をはじめとした美術展や文化イベントの撮影などを手掛けるなど、自ら活動のフィールドを広げる意欲的な姿が印象的でした。



小牧寿里写真事務所
〒047-0261 小樽市銭函2丁目36番3号
TEL 090-2329-1852
E-mail komaki@s-photo.sakura.ne.jp



小樽市総合博物館 運河館VR
学芸員による紹介動画や普段立ち入ることの出来ない箇所も見ることができ、説明も読むことができる



旧北海製罐株式会社小樽工場第3倉庫VR
断面した映像で倉庫内の様子がわかりやすく



札幌国際芸術祭2017での
展示風景



事務所デスク周り編集機材



代表の小牧さん

まちの記録を後世に

縁あって小樽で暮らすようになり、映像技術で小樽の魅力を表現できるのではないかと考えています。

保存されることが決まった旧北海製罐株式会社小樽工場第3倉庫内部を360度カメラで数枚撮影、工場内を仮想空間で見学できるVRを制作しました。これを配信することで、歴史的建造物を巡るツアーや、デジタル保存することで、その場にいないような臨場感や建物の細部に至るまで正確に貴重な資料として将来に残すことができます。

昨年10月、北海道では現役最古で百数十年に及ぶ市内の銭湯が営業を終えました。施設の老朽化が進み、営業継続が困難との理由です。取り壊しが決まり、小牧さんは「建物の